

令和6年度体験的学習活動等休業日（ふれあいホリデー（仮称）11/22）
アンケート結果について

1 アンケート調査の目的

「ふれあいホリデー（仮称）」の試行について、実施状況を把握・検証し、今後の取組の参考とするため。

2 アンケート調査の方法

(1)対象者

- ①児童生徒：小学校1年生から中学校3年生
- ②保護者：市内小中学校児童生徒の保護者
- ③教職員：市内小中学校教職員

(2)調査方法

アンケートの実施について周知し、所定の URL または QR コードより回答(任意回答)

(3)調査期間

令和6年11月27日(水)～令和6年12月9日(月)

3 回答状況(回答数)

- (1)児童生徒 2348 件(回答率約 70%)
- (2)保護者 1071 件(回答率約 40%)
- (3)教職員 234 件(回答率約 48%)

4 主な結果(詳細別紙参照)

【児童生徒】

- ・全体として、取組を歓迎する声が多い。
- ・保護者の休暇取得に関して課題視する声はある。

【保護者】

- ・制度の趣旨は理解できるものの、現状の実施方法では職場や家庭の実情に合っていないという意見も多く見られる。

【教職員】

- ・概ね歓迎する声が多いが、実施方法については改善の余地があるという意見があった。

【児童生徒】

11月22日（ふれあいホリデー）はどのように過ごしましたか。

No.	選択肢	実数			率		
		全体	小学校	中学校	全体	小学校	中学校
1	家族と家で過ごした	834	513	321	 35.5%	 34.7%	 36.9%
2	家族と一緒にイベントに参加した	77	68	9	 3.3%	 4.6%	 1.0%
3	家族と倉吉市内に出かけた	156	106	50	 6.6%	 7.2%	 5.8%
4	家族と倉吉市外に出かけた	334	263	71	 14.2%	 17.8%	 8.2%
5	親戚や知り合いと過ごした	82	64	18	 3.5%	 4.3%	 2.1%
6	子どもだけで家で過ごした	343	135	208	 14.6%	 9.1%	 23.9%
7	子どもだけで地域で過ごした	72	30	42	 3.1%	 2.0%	 4.8%
8	子どもだけでイベントに参加した	61	42	19	 2.6%	 2.8%	 2.2%
9	児童館、放課後児童クラブなどで過ごした	123	118	5	 5.2%	 8.0%	 0.6%
10	その他	266	140	126	 11.3%	 9.5%	 14.5%
	合計	2,348	1,479	869	100.0%	100.0%	100.0%

どのように感じましたか。

No.	選択肢	実数			率		
		全体	小学校	中学校	全体	小学校	中学校
1	とてもよかった	1,542	988	554	 65.7%	 66.8%	 63.8%
2	よかった	656	392	264	 27.9%	 26.5%	 30.4%
3	あまりよくなかった	101	65	36	 4.3%	 4.4%	 4.1%
4	よくなかった	49	34	15	 2.1%	 2.3%	 1.7%
	合計	2,348	1,479	869	100.0%	100.0%	100.0%

データ分析①全体

【肯定的な意見】

- ・家族と過ごす時間が増えて良かった。
- ・普段できない家族旅行やお出かけができた。
- ・家族と話す機会になって良かった。
- ・ゆっくり休める時間があった良かった。
- ・イベントに参加して楽しかった。
- ・友達と遊べる時間があった良かった。
- ・テスト勉強の時間が確保できた。
- ・イベントのボランティアに参加して、小学生と関わることができた。

【改善要望】

- ・親が仕事で休めないため、家族で過ごせない家庭が多かった。
- ・テスト期間と重なっていたので、時期の調整を希望する。
- ・もっと回数を増やしてほしい（月1回、年に数回など）
- ・子どもだけでなく親も確実に休めるようにしてほしい。
- ・より多くのイベントを開催してほしい。
- ・保育園も対象にしたらいと思った。
- ・高校生も対象にしたらいと思った。

【課題】

- ・子どもは休みでも親が仕事の場合、ふれあいの目的が達成できない。
- ・急な休みで親が休暇を取りづらい。
- ・平日の休みより（週末のような）休日のほうが家族で過ごしやすい。
- ・一部の家庭では普通の休日と変わらない過ごし方になってしまった。

全体として、休日自体は歓迎する声が多いものの、親の休暇取得に関する課題が指摘されている。

データ分析②小学校と中学校の違い（傾向）

【問2 どのように過ごしましたか】

〈小学校〉

- ・最も多かったのは「家族と家で過ごした」(513人)次いで「家族と倉吉市外に出かけた」(263人)「子どもだけで家で過ごした」(135人)
- ・「児童館や放課後児童クラブで過ごした」も一定数見られた(118人)

〈中学校〉

- ・小学生と同様に「家族と家で過ごした」(321人)が最も多い。しかし、「子どもだけで家で過ごした」(208人)が小学生より割合が高い。
- ・外出(市内または市外)は小学生に比べて少なめ。

【問3 どのように感じましたか】

〈小学校〉

- ・「とてもよかった」(988人)が最多で、次いで「よかった」(392人)
- ・否定的な回答(「あまりよくなかった」または「よくなかった」)は99人。

〈中学校〉

- ・「とてもよかった」(554人)が最多で、次いで「よかった」(264人)
- ・否定的な回答(「あまりよくなかった」または「よくなかった」)は小学生より少なく、合計51人。

【主な傾向】

〈活動の違い〉

- ・小学生は家族との外出や地域の施設を活用する傾向が強い一方、中学生は自宅(特に子どもだけ)で過ごす割合が高い。
- ・中学生は自主性が高い活動(友だちと過ごす、地域で過ごす)も増加。

〈感想の違い〉

- ・小学生の方が「とてもよかった」と答える割合が高い。
- ・中学生では「よかった」との回答が相対的に増えるが、否定的な意見は全体として少ない。

【保護者】

11月22日（ふれあいホリデー）はお子様と一緒に過ごされましたか。

No.	家庭のケース	実数			率	
		合計	過ごした	過ごしていない	過ごした	過ごしていない
1	全体	1,046	513	533	49.0%	51.0%
2	小学生がいて、中学生はいない家庭	622	323	299	51.9%	48.1%
3	小学生はいなくて、中学生がいる家庭	253	96	157	37.9%	62.1%
4	未就学児がいる家庭	111	67	44	60.4%	39.6%
5	中学校を卒業した子（高校生等）がいる家庭	60	27	33	45.0%	55.0%

(「お子様と一緒に過ごした」と回答された方)主にどのように過ごされましたか。

No.	家庭のケース	家庭で過ごした	イベント等に参加した	倉吉市内へ出かけた	倉吉市外へ出かけた	その他	合計
1	全体	142	55	83	215	18	513
2	小学生がいて、中学生はいない家庭	74	35	59	147	8	323
3	小学生はいなくて、中学生がいる家庭	39	10	11	28	8	96
4	未就学児がいる家庭	18	8	10	31	0	67
5	中学校を卒業した子(高校生等)がいる家庭	11	2	3	9	2	27
率	全体	 27.7%	 10.7%	 16.2%	 41.9%	 3.5%	
	小学生がいて、中学生はいない家庭	 22.9%	 10.8%	 18.3%	 45.5%	 2.5%	
	小学生はいなくて、中学生がいる家庭	 40.6%	 10.4%	 11.5%	 29.2%	 8.3%	
	未就学児がいる家庭	 26.9%	 11.9%	 14.9%	 46.3%	 0.0%	
	中学校を卒業した子(高校生等)がいる家庭	 40.7%	 7.4%	 11.1%	 33.3%	 7.4%	

(「お子様と一緒に過ごしていない」と回答された方)お子様はどのように過ごされましたか。

No.	家庭のケース	放課後児童クラブ等を利用した	(回答者様以外の)家族、親類等と過ごした	知り合いに預けた	子どもだけで過ごした	その他	合計
1	全体	117	116	12	230	58	533
2	小学生がいて、中学生はいない家庭	98	80	8	92	21	299
3	小学生はいなくて、中学生がいる家庭	0	22	1	106	28	157
4	未就学児がいる家庭	16	8	2	13	5	44
5	中学校を卒業した子(高校生等)がいる家庭	3	6	1	19	4	33
率	全体	 22.0%	 21.8%	 2.3%	 43.2%	 10.9%	
	小学生がいて、中学生はいない家庭	 32.8%	 26.8%	 2.7%	 30.8%	 7.0%	
	小学生はいなくて、中学生がいる家庭	 0.0%	 14.0%	 0.6%	 67.5%	 17.8%	
	未就学児がいる家庭	 36.4%	 18.2%	 4.5%	 29.5%	 11.4%	
	中学校を卒業した子(高校生等)がいる家庭	 9.1%	 18.2%	 3.0%	 57.6%	 12.1%	

休暇を取得されましたか

No.	家庭のケース	実数			率	
		合計	取得した	取得していない	取得した	取得していない
1	全体	1,046	394	652	 37.7%	 62.3%
2	小学生がいて、中学生はいない家庭	622	258	364	 41.5%	 58.5%
3	小学生はいなくて、中学生がいる家庭	253	68	185	 26.9%	 73.1%
4	未就学児がいる家庭	111	50	61	 45.0%	 55.0%
5	中学校を卒業した子（高校生等）がいる家庭	60	18	42	 30.0%	 70.0%

「休暇を取得していない」と回答いただいた方は、次のどれにあたりますか。（該当：652件、複数回答）

No.	取得していない方の理由 (複数回答・上位のみ)	実数	率
1	業務多忙で取得できなかった	295	 45.2%
2	取得しにくかった	238	 36.5%
3	取得するつもりはなかった	134	 20.6%
4	自営業だから	51	 7.8%
5	勤務日ではなかった	30	 4.6%
6	職場で推奨されたが取得しなかった	13	 2.0%

来年度実施する場合、適切な時期について考えを教えてください。

No.	時期（上位のみ）	実数	率
1	11月の同じ時期	446	 42.6%
2	5月のゴールデンウィーク期間中	287	 27.4%
3	6月（6月を含む期間）	29	 2.8%
4	分からない	14	 1.3%
5	10月（10月を含む期間）	11	 1.1%
	実施に否定的な意見	68	 6.5%

データ分析①全体

【肯定的意見】

- ・我が子と過ごす時間を大切にできる取組であり、このような時間が少しずつ増えていけばよいと感じた。
- ・早めに日程が分かり、休暇が取りやすかった。とても有り難い休みであった。
- ・子どもが司書志望であり、図書館で司書体験に参加することができて良かった。
- ・謎解きイベントに参加し、じっくり楽しむことができた。
- ・親子でイベントに参加して、普段できない体験が一緒にできて良かった。

【制度設計に関する課題】

- ・親が休暇を取れない現状で、子どもだけを休みにしても意味がない。
- ・市内一斉実施では特定の職場で人手不足が深刻化するのでは。
- ・企業への周知と休暇取得推進が不十分である。
- ・休暇が取れない家庭の子どもが寂しい思いや辛い思いをする。
- ・職種によって休暇取得のしやすさに大きな差がある。

【改善提案】

- ・学校ごとに日程をずらして分散実施。
- ・家庭の都合で自由に日を選べる制度に変更。
- ・県全体での実施を検討（県民の日との統合など）
- ・中部圏域での統一。
- ・子ども版有給休暇制度の導入。
- ・より早い段階での周知。
- ・企業への働きかけ強化。
- ・地域の理解。
- ・子ども向けイベントの充実
- ・テスト期間や学校行事との重複を避ける

全体として、「子どもや家族と関わる有意義な時間になった」など、制度の趣旨は理解できるものの、「自営業、サービス業など、休みにくかったり収入に関わる場合もある」など、現状の実施方法では職場や家庭の実情に合っていないという意見も多く見られる。「業務多忙で休暇が取得しにくい」という課題も存在しており、企業との協力や地域でのサポート体制の強化も含め、今後の対応が課題である。

データ分析②年齢層ごとの傾向

【未就学児～小学校低学年】

〈子どもと過ごした割合〉

- ・約53%の家庭が「子どもと過ごした」と回答しており、割合が比較的高い傾向にある。

〈主な過ごし方〉

- ・「倉吉市外へ出かけた」が最も多く（約46%）、次いで「家庭で過ごした」（約35%）となっている。イベントや体験活動への参加は比較的小さい。

〈休暇取得のしやすさ〉

- ・「業務多忙で取得できなかった」とする回答が約22%で、休暇取得が課題となるケースが見られる。

【小学校高学年～中学生】

〈子どもと過ごした割合〉

- ・「子どもと過ごした」と回答した家庭は約40%で、低年齢層の家庭よりもやや低い割合となっている。

〈主な過ごし方〉

- ・「倉吉市外へ出かけた」（約35%）が最多で、「家庭で過ごした」（約31%）が続いている。低年齢層の家庭に比べて活動内容の分布が分散している。

〈休暇取得のしやすさ〉

- ・「業務多忙で取得できなかった」とする回答が約26%で、低年齢層の家庭よりも取得しにくい状況がやや目立つ。

【混在する家庭（低学年と高学年・中学生が両方いる家庭）】

- ・特定の傾向は見受けられない。

【考察】

- ・低学年児童のいる家庭では、ふれあいホリデーに積極的な傾向が見られる。
- ・高学年から中学生のいる家庭では、子どもと過ごす割合が低下する傾向がある。

【教職員】

休暇を取得されましたか

No.	選択肢	実数	率
1	取得した	207	83.8%
2	取得していない	40	16.2%
	合計	247	

(休暇を取得した人の回答) どのように過ごされましたか

No.	選択肢	実数	率
	心身の休養やリフレッシュ	122	58.9%
	子どもと一緒に過ごした	43	20.8%
	家庭でできる自己研鑽(教材研究など)を行った	13	6.3%
	家庭でできる仕事(教材研究など)を行った	2	1.0%
	その他	27	13.0%
	合計	207	

データ分析（全体）

【肯定的な意見】

- ・子どもと過ごすことができ、取組に賛成する。
- ・新しい取組として、とても良い取組だと感じた。
- ・年休取得の良い機会となった。
- ・業務整理の時間が確保できた。
- ・当日に合わせて、市内で様々なイベントが計画されていたのが良かった。
- ・リフレッシュできた。

【主な課題】

● 実施時期について

- ・テスト期間と重なった。
- ・研修と重なりがあった。
- ・もっと休暇が取りにくい月（6月など）での実施を希望する。

● 運営上の課題

- ・保護者が休暇が取得できないと意味がないのではないか。
- ・研修・出張と重なり休めない教職員がいた。
- ・誰かが学校に残らないといけない。
- ・地域によって実施日が違うこと。

● 改善への提案

- ・県全体での一斉実施。
- ・完全閉庁日にする。
- ・研修や出張を入れない日程調整。
- ・より早い段階での周知。